

関東ふれあいの道(千葉)㉗川と沼をつなぐみち

2023年(令5)10月26日 池内淑皓

2022年4月1日(金)真冬並みの寒さ。朝早く横浜を出て、出発地のJR成田線の滑河駅9時に着く。
今日歩く道は、コース「③古墳を訪ねるみち」と殆ど重複しており、㉗コースそのものは、わずか3.5km・40分程の距離である。なぜ繋ぎのコースを設定したのか、疑問。



「㉗川と沼をつなぐみち」案内板 龍正院境内にあり(首都圏自然歩道協議会)



「㉗川と沼をつなぐみち」コース概念図



「㉗川と沼をつなぐみち」行程図 (コース分岐点から安食駅まで)



今日の鉄道最寄り下車駅は、成田線「滑川駅」9:55 着



駅から歩 15 分程で龍王院に着く、ここが今回のコース出発地点となる



別名滑川観音。坂東 33 観音のうち 24 番札所。今日は桜が満開であった



道標に従って龍角寺に向かうが、この案内板は日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語で表示されている。関東ふれあいの道も国際的になってきたね。



まずは田圃の畔道を通り、利根川方向に歩く



新川水門で、国道356号線が通る土手道の側道が、ふれあいの道である。大型の車が途切れることなく通る。



この部分の利根川は、江戸時代、徳川家康の命により開削された川なのだ。それまでは江戸川を通り、東京湾に注いでいたが、氾濫防止のため、直角に東へ向けて開削された。水は鹿島灘に注ぐ



関東郡代、伊那忠次三代にわたり、65 年を費やして完成させた。
河口から 58km、前方の構築物は先程通過した新川水門、国道は脇を通っている



土手を降りて集落の道を歩くと、安西集落に水神様が祀られていた。宝暦 7 年(1757)上之宮と下之宮が合祀して、建て替えられたと記す



「庚申塔」享保 7 年(1722)安西村講中が造立した青面金剛童子像。彫像の傷みがなく価値ある庚申塔だと思う



利根川を離れて南へ、田圃道を竜台(たつだい)集落に向かう



竜台集落は田圃の中の集落で、利根川が氾濫したら、ひとたまりもない低地に位置している



竜台集落高台の延命地藏様



竹藪を潜って次の集落に向かう





1万8千年前頃に土砂が堆積した、典型的な北総沖積台地である。台地の地形がよくわかる。



畦道の中を縫うように道がつけられている。田植えが終わると蛙の合唱が聞こえてそう。稲穂が実った秋に歩きたいね



田圃を離れて標高 24mの台地になると、麻生の集落に入る。
ここにコース⑦「沼めぐりのみち」分岐に出る、道標の案内に従って安食に向かう



また 同じように里山の縁を縫うように歩く



山が切れて、町が見えて来た



安食の町が近づいてきた



JR 成田線 安食駅到着 14:10

[参考タイム] 滑川駅(9:00)→龍正院(10:15-10:20)→新川水門(11:08)竜台(12:05-12:10)→
関東ふれあいのみち⑰コース分岐(13:45)→JR 安食駅着ゴール(14:10)

この項完

関東ふれあいの道(千葉)「⑳沼めぐりのみち」へ続く